



グローバルハイスクール

新時代とやまハイスクール 第1期設置方針（案）

未来探求ハイスクール



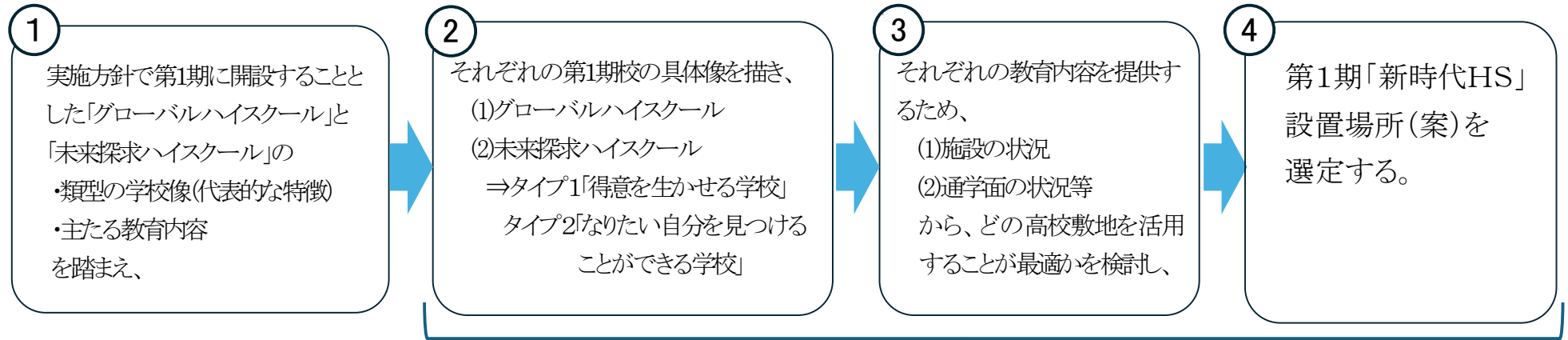
目次

1. 第1期の「再構築」に係る基本的な考え方	1
(1) 「新時代HSの設置場所」についての検討の流れ	
(2) 「県立高校として使用しなくなる校舎・敷地」についての検討の流れ	
(3) 新時代HSへの移行手順	
2. グローバルハイスクール	2
(1) 具体像	
(2) 教育内容・学科構成	
(3) 学校規模	
(4) 活用する校舎・敷地	
3. 未来探求ハイスクール（タイプ1「得意を生かせる学校」）	4
(1) 具体像	
(2) 教育内容・学科構成	
(3) 学校規模	
(4) 活用する校舎・敷地	
4. 未来探求ハイスクール（タイプ2「なりたい自分を見つけることができる学校」）	7
(1) 具体像	
(2) 教育内容・学科構成	
(3) 学校規模	
(4) 活用する校舎・敷地	
5. 県立高校として使用しなくなる校舎・敷地	10
(1) 滑川・中新川エリア	
(2) 富山エリア	
(3) 射水エリア	
(4) 高岡・氷見・小矢部エリア	

1 第1期の「再構築」に係る基本的な考え方

「新時代とやまハイスクール構想実施方針」及び「新時代とやまハイスクール再構築ガイドライン(案)」を踏まえ、第1期の「再構築」の具体化を検討。

(1)「新時代とやまハイスクール(以下「新時代HS」という。)の設置場所」についての検討の流れ



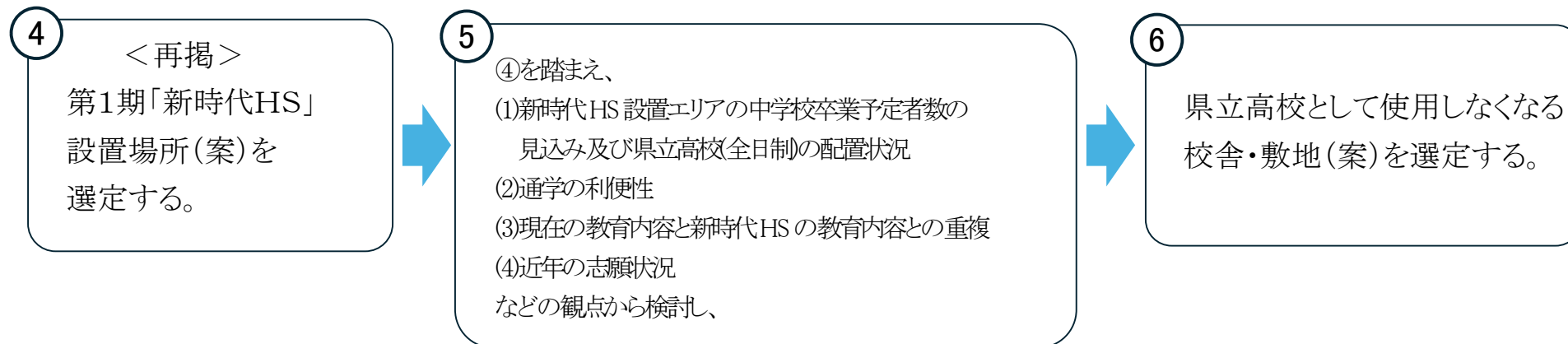
(設置エリアの検討)

県西部			県東部		
砺波・南砺	高岡・氷見・小矢部	射水	富山	滑川・中新川	魚津・黒部・下新川
	・未来探求HS (タイプ1とタイプ2を1校ずつ)	・未来探求HS	・グローバルHS ・未来探求HS (タイプ1とタイプ2を1校ずつ)	・未来探求HS	

(グローバルハイスクール) 全県からの通学の利便性を考慮して富山市内に設置する。

(未来探求ハイスクール) これまでにない特色ある学校となることから、より多くの生徒の通学利便性を重視する。

(2) 「県立高校として使用しなくなる校舎・敷地」についての検討の流れ



(3) 新時代HSへの移行手順

【基本的な考え方】

- ・ 移行準備校(34校)に現在設置されている各学科は、各期に順次、募集停止とし新時代HSを設置していく。
- ・ その上で、新時代HSの学校名等は、敷地を活用することとなる移行準備校の学校名やその変遷等も踏まえ、検討する。

2 グローバルハイスクール

(1) 具体像



世界とつながりながら、思考し発信する力を磨く学校



《身に付けられる資質や能力》

- ・ 地域と世界の課題を多面的に探究し、本質を見極める力
- ・ 多様な文化や価値観を尊重し、対話と協働を通して新たな価値を創造する力
- ・ 地域社会や日本について自らの考えを論理的に構築し、英語で世界へ発信する

《取組み例》 ※今後の各校の学校づくりの検討の中で更に具体化していく

●探究的手法による学び

- ・ 各教科・科目において、教科等横断的な視点を取り入れ、「探究×生成 AI」による学びを推進する。
- ・ 国際問題、環境、科学技術、多文化共生、地域課題などをテーマに、グローバルな視点から自ら問いを立て、情報を収集・分析し、考察・発信する探究活動を行う。

●英語表現力を高める学び

- ・ 英語の授業において、「英語×生成 AI」による学びを活用し、英語ディベート、英語プレゼンテーション、エッセイライティング、英会話など、自分の意見を英語で表現する活動を重視する。

●異文化理解につながる学び

- ・ 世界の歴史・宗教・文化や人々の多様な価値観を学び、国際社会への理解を深める。
- ・ 海外の高校生と交流し、学校生活や文化の違いについて英語で学び合い、世界中に多様な価値観を持つ友人のネットワークを広げる。

●英語実践力・発信力を育成する学び

- ・ 外国人教師の複数配置、オンラインによる海外の学校との継続的な交流や合同授業、短期海外研修などを通して、世界に開かれた学びを実践する。
- ・ 海外の生徒や学生とチームで環境問題や SDGs などの世界共通の課題の解決に挑戦し、自分たちが考えた解決策を英語で世界に発信する。

(2) 教育内容・学科構成

- ・ 1 年次には、全ての生徒が英語による授業などにより英語実践力・発信力を身に付ける。
- ・ 2 年次からは、グローバルコース (40～80 名程度) を開設する。
- ・ グローバルコースでは、国内大学の総合型選抜への対応や海外進学も視野に英語力の向上、探究活動の充実を図る。
- ・ 教科等横断的な学習の推進による資質・能力の育成を推進し、探究活動、特色・魅力ある文理融合的な学びを実現するための学科のあり方について検討を進める。

3 年次	グローバルコース	コース生以外 ※グローバルコースの授業を一部履修可能 ※希望者は短期留学等への参加可能
2 年次		
1 年次	英語による授業、異文化理解につながる探究活動：1 年次全員履修	

(3) 学校規模

- ・ 生徒に特色ある「新時代 HS」の選択肢を提供すること、中規模校の中でも一定の生徒数を確保することで教員配置数の確保を含む教育環境の充実などの観点から、6 学級を基本として検討する。

(4) 活用する校舎・敷地

「富山高校の校舎・敷地」を活用する

(検討の視点)

- ・ 一斉授業⇔グループワーク⇔個別学習をシームレスに展開し、発展的な探究活動に活用できる可動式の椅子やオンライン会議機能を備えた電子黒板などが整備されている。
- ・ 探究活動の成果発表等に活用できる多目的ホール（ミルクホール）が整備されている。
- ・ 現在、探究科学科が設置されており発展的な探究活動につながる素地がある。
- ・ グローバルハイスクールは、当面の間、県内に 1 校の設置となることから全県からの通学の利便性を考慮する。

(富山駅から約 20 分)

3 未来探求ハイスクール（タイプ1 「得意を生かせる学校」）

（1）具体像



得意を生かした専門的な学びを通して 未来を切り拓く力を育む学校



《身に付けられる資質や能力》

- ・ 自らの目標に向かって、学び続ける姿勢
- ・ 専門分野の深い知識・技術・実践的能力
- ・ 「強み」を生かして社会をよりよくできる力

《取組み例》 ※今後の各校の学校づくりの検討の中で更に具体化していく

・「各専門分野（スポーツ、芸術、情報、商業、家庭など）×社会課題」

専門分野の知識や技術を活用した探究活動により、社会課題の解決に生かす力を育成する。学びの成果を社会に発信するため、地域公開イベントの開催にも取り組む。

各専門分野（スポーツ、芸術、情報、商業、家庭など）の視点からまちおこしプロジェクトを提案する。生徒が企画・運営する「まちフェス」を開催する。

・「各専門分野（スポーツ、芸術、情報、商業、家庭など）×AI・データサイエンス」

「AI・データサイエンスを武器に未来をつくる」をテーマに、活用機会の増大に対応した実践的な情報教育を推進する。

VR（仮想現実）、AR（拡張現実）、MR（複合現実）での販売実習、スポーツ分野におけるAI・データサイエンスの活用による戦術分析などを行う。AR（拡張現実）により課題解決のシミュレーションを行う。

・より専門性の高い学びを実践するため、外部人材（企業、大学等）を活用する。

プロのスポーツ選手や芸術家との交流、地元企業やYouTuber等とコラボした企画・開発を行う。

・週に1～4日は午前授業（4時間）のみとし、大学等と連携した専門的な学びや部活動など、自分が「夢中になれる時間」を充実させる。

午後は企業での就業実践や大学・専門学校で情報分野の専門的な学習等に取り組む。科学的根拠に基づくトレーニングを実践し、競技力向上に必要な知識と技術を習得する。

・スポーツ及び文化・芸術等の分野において、高い成果が期待できる部活動を強化指定部とし、部活動に打ち込める環境を整備する。（指導体制の充実、施設・設備の整備、部活動の時間を十分に確保できるような柔軟な教育課程の編成）

トレーナーや栄養士等の派遣によるサポート体制を構築する。プロクラブ等との連携により、第一線の指導を継続的に受けられる環境を整備する。

(2) 教育内容・学科構成

- ・情報教育を充実させる学科、職業系専門科目を学ぶ学科、その他、生徒のニーズに対応した学科を開設する。
- ・1年次には、全ての生徒が、専門性を生かしたキャリア形成や社会貢献について学ぶ。(学校設定科目)
- ・2年次以降は、興味関心や進路希望に応じて他学科の科目も選択できる仕組みとする。
- ・「余白の時間」を創出し、多様な学びを実現する。

《学科構成のイメージ》

3年次	※他学科の科目も選択できる仕組み		※「余白の時間」による多様な学び	
2年次	商業科の学び		× AI・情報	× 各種専門分野 (スポーツ、文化・芸術など)
1年次	専門性を生かしたキャリア形成や社会貢献に関する学習(学校設定科目): 1年次全員履修			

※具体的な設置学科については、「設置方針」を取りまとめた後、教育委員会や学校関係者によるプロジェクトチームにおいて検討する。

《教育課程のイメージ》

- ・卒業に必要な単位数を最低限の74単位とし、「余白の時間」(※)を創出する。
- ・「余白の時間」は、生徒が興味関心や進路希望に応じて、①学校内での授業(探究活動含む)、②部活動、③学校外での学修(大学や専門学校での専門的な学びなど)に活用する。

1年次(25単位)

	月	火	水	木	金
1限	1	5	11	15	21
2限	2	6	12	16	22
3限	3	7	13	17	23
4限	4	8	14	18	24
5限	※	9	※	19	25
6限	※	10	※	20	※

2年次(25単位)

	月	火	水	木	金
1限	1	5	11	15	21
2限	2	6	12	16	22
3限	3	7	13	17	23
4限	4	8	14	18	24
5限	※	9	※	19	25
6限	※	10	※	20	※

3年次(24単位)

	月	火	水	木	金
1限	1	5	11	15	21
2限	2	6	12	16	22
3限	3	7	13	17	23
4限	4	8	14	18	24
5限	※	9	※	19	※
6限	※	10	※	20	※

（３）学校規模

- ・生徒への特色ある「新時代HS」の選択肢を提供する観点や、中規模校の中でも一定の生徒数を確保することで教員配置数の確保を含む教育環境の充実や学校行事・部活動の活性化の観点などから、6学級を基本として検討する。

（４）活用する校舎・敷地

《県東部》

「富山商業高校の校舎・敷地」を活用する

（検討の視点）

- ・商業や情報などの専門科目の開設が可能な実習特別教室棟が整備されている。
- ・充実した部活動の展開が可能な野球部専用グラウンドのほか、弓道場や複数の部室を有している。
- ・情報教育の内容は、現在、商業科で行われている教育活動との親和性が高い。
- ・「余白の時間」を活用して隣接する富山大学や富山工業高校と連携した教育活動の展開が期待できる。
- ・富山駅から22分（市内電車12分、徒歩10分）であり、県東部地域から広域的に通学が可能。

《県西部》

「高岡商業高校の校舎・敷地」を活用する

（検討の視点）

- ・商業や情報などの専門科目の開設が可能な商業科実習室が整備されている。
- ・充実した部活動の展開が可能な第2グラウンド、補助グラウンド、球技運動場（テニス、ハンドボール）を有している。
- ・情報教育の内容は、現在、商業科で行われている教育活動との親和性が高い。
- ・「余白の時間」を活用して近隣の高岡高校や高岡工芸高校と連携した教育活動の展開が期待できる。
- ・高岡駅からバスで約10分、自転車です約15分であり、県西部地域から広域的に通学が可能。

4 未来探求ハイスクール（タイプ2 「なりたい自分を見つけることができる学校」）

（1）具体像

多様な学びを通じ「なりたい自分」を見つけ 未来を切り拓く力を育む学校

《身に付けられる資質や能力》

- ・ 自分自身の興味関心や適性を理解し、進路目標を描くことができる力
- ・ 進路目標に向け、自分のペースで着実に学習活動等に取り組むことができる力
- ・ 自分自身の個性を「強み」とし、共生社会をデザインできる力

《取組み例》 ※今後の各校の学校づくりの検討の中で更に具体化していく

- ・ 学校外とも連携し、多様な職業観を養うことで「やりたいこと」を見つけ、「なりたい自分」を描くことができるキャリア教育を充実する。
- ・ 自分自身の適性や進路目標に合わせて「多様な科目から興味関心や適性に合った学習内容を選択できる」仕組みを導入し、自分の可能性を広げながら、未来の進路を主体的に切り拓く力を育む。
- ・ 分野の枠を超えた学びにより、生徒同士の交流や新たな気づきを生み出す機会をつくる。
興味関心異なる仲間と協力して学校の魅力を発信する「学校フェス」を企画・運営する。
- ・ 「基礎学力の定着」や「発展的な学び」など多様な学習ニーズ、個々の習熟度に対応した個別最適な学習環境を整備する。
- ・ 週に1～4日は午前授業（4時間）のみとし、学校外（大学の授業受講、地域貢献活動など）での体験的な活動など、自分の「可能性を広げる時間」とする。
午後は地元企業との連携による商品開発や就業体験、高等教育機関への進学を目指した発展的な学習・大学や専門学校での専門的な学習、地域住民の方も参加するサークル活動、外国人生徒のための日本語学習や学び直しなどに取り組む。
- ・ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、日本語指導員などの配置を充実させ、個に応じた手厚いサポートで生徒の自信を育む学びを支援する。

放課後等の時間を活用した外部人材（教員志望の大学生、NPO法人、教員OBなど）による学習支援を行う。

(2) 教育内容・学科構成

- ・1年次には、幅広い分野の学びに触れる機会を設ける。(学校設定科目)
- ・2年次からは、複数の系列の科目から自分自身の興味関心や進路希望に応じて学習内容を選択できる仕組みを設ける。
- ・入学後に自分自身の興味関心や進路希望に応じて学習内容を選択できるよう、柔軟な教育課程や円滑な学校運営などの観点からより効果が期待できると考えられる「総合学科」としての開設を視野に検討を進める。また、外国人生徒に係る特別入学校を含む誰一人取り残されない教育の実現を目指す。

《学科構成のイメージ》

3 年次	普通系学科の系列			職業系専門学科の系列		
	A 系列	B 系列	C 系列	D 系列	E 系列	F 系列
2 年次	※他系列の科目も履修可能					
1 年次	幅広い分野の学び (学校設定科目)					

《系列の例》

- ・理数系科目を中心に学ぶ系列
- ・外国語科目を中心に学ぶ系列
- ・家庭科目を中心に学ぶ系列
- ・芸術科目を中心に学ぶ系列

※具体的な設置系列については、「設置方針」を取りまとめた後、教育委員会や学校関係者によるプロジェクトチームにおいて検討する。

《教育課程のイメージ》

- ・卒業に必要な単位数を最低限の 74 単位とし、「余白の時間」(※)を創出する。
- ・「余白の時間」は、生徒が興味関心や進路希望に応じて、①学校内での授業(探究活動含む)、②部活動、③学校外での学修(大学専門学校での専門的な学び)、④個別最適な学びに活用する。

1 年次 (25 単位)

	月	火	水	木	金
1 限	1	5	11	15	21
2 限	2	6	12	16	22
3 限	3	7	13	17	23
4 限	4	8	14	18	24
5 限	※	9	※	19	25
6 限	※	10	※	20	※

2 年次 (25 単位)

	月	火	水	木	金
1 限	1	5	11	15	21
2 限	2	6	12	16	22
3 限	3	7	13	17	23
4 限	4	8	14	18	24
5 限	※	9	※	19	25
6 限	※	10	※	20	※

3 年次 (24 単位)

	月	火	水	木	金
1 限	1	5	11	15	21
2 限	2	6	12	16	22
3 限	3	7	13	17	23
4 限	4	8	14	18	24
5 限	※	9	※	19	※
6 限	※	10	※	20	※

(3) 学校規模

- ・生徒への特色ある「新時代HS」の選択肢を提供する観点や、中規模校の中でも一定の生徒数を確保することで教員配置数の確保を含む教育環境の充実や学校行事・部活動の活性化の観点などから、6学級を基本として検討する。

(4) 活用する校舎・敷地

《県東部》

「滑川高校の校舎・敷地」を活用する

(検討の視点)

- ・多様な科目の開設が可能な栽培漁業、船舶エンジン、水産食品加工の3分野に対応した実習棟、大型水槽、全国的にも設置の少ない薬業に関する実習機器などが整備されている。
- ・「余白の時間」を活用して近隣の企業等と連携した教育活動の展開が期待できる。
- ・地鉄西滑川駅から徒歩10分、あいの風とやま鉄道滑川駅から徒歩30分と県東部地域から広域的に通学が可能。

《県西部》

「小杉高校の校舎・敷地」を活用する

(検討の視点)

- ・多様な科目の開設が可能な、情報、工業、福祉、美術などの実習設備が整備されている。
- ・「余白の時間」を活用して近隣の富山県立大学や富山福祉短期大学と連携した教育活動の展開が期待できる。
- ・あいの風とやま鉄道小杉駅から徒歩15分と県西部地域から広域的に通学が可能。

5. 県立高校として使用しなくなる校舎・敷地

- ・今後、中学校卒業予定者数は、令和8年度の8,107人から令和20年度には6,010人（令和8年度比▲25.9%）まで減少する見込みであり、生徒一人ひとりの興味や進路希望により幅広く応え、特色ある教育活動をさらに充実させていくためには、現在の県立高校（全日制）34校を20校程度とし、1校あたりの生徒数を一定程度確保する必要がある。
- ・こうしたことから、第1期の新時代ハイスクールとして活用する校舎・敷地を踏まえ、県立高校として使用しなくなる校舎、敷地について、次の観点から検討を行った。

- ・新時代HS設置エリアの中学校卒業予定者数の見込み及び県立高校（全日制）の配置状況
- ・通学の利便性
- ・現在の教育内容と新時代HSの教育内容との重複
- ・近年の志願状況 など

（1）滑川・中新川エリア

①県立高校（全日制）の設置状況

滑川高校（普通科、薬業科、商業科、海洋科）	第1期校として活用
上市高校（総合学科）	町に1校
雄山高校（普通科、生活文化科）	町に1校

上市高校、雄山高校ともに町に1校のみの県立高校であることから、「新時代とやまハイスクール再構築ガイドライン（案）」の「第2期（令和15年度頃）の『地域共創ハイスクール』設置に向けた方針」に基づき、第1期の再構築では、閉校としない。

(2) 富山エリア

①県立高校（全日制）の設置状況

中央農業高校（農業科）		富山工業高校（工業科）	
八尾高校（普通科）		富山商業高校（商業科）	第1期校として活用
富山西高校（普通科）		富山いずみ高校（総合学科、看護科）	
富山高校（普通科、探究科学科）	第1期校として活用	富山東高校（普通科）	
富山中部高校（普通科、探究科学科）		富山南高校（普通科）	
富山北部高校（普通科、くすり・バイオ科、情報デザイン科）		呉羽高校（普通科）	第3期校として活用

当エリアのうち、第1期校として活用する富山高校、富山商業高校がある富山市中央部には、富山西高校、富山中部高校、富山工業高校、富山いずみ高校の4校が設置されている。

②通学の便

富山西高校	富山駅から21分（JR高山線11分＋速星駅から徒歩10分）
富山中部高校	富山駅から12分（徒歩）
富山工業高校	富山駅から17分（市内電車14分＋大学前駅から徒歩3分）
富山いずみ高校	富山駅から17分（市内電車16分＋堀川小泉駅から徒歩1分）

③教育内容

富山中部高校における探究的な学び、富山西高校、富山いずみ高校における多様な学びは、それぞれ第1期に設置するグローバルハイスクール、未来探求ハイスクールの教育内容と共通する部分が多い。富山工業高校の教育内容は第1期校と共通する内容が少ない。

④志願状況（直近5年平均）、地元進学率（3年平均の比較 R3-R5⇒R6-R8）

富山西高校	普通科 0.72 倍	【参考】富山市内中学校からの進学割合 富山西高校 3.8%⇒2.8% 富山中部高校 5.9%⇒5.3% 富山いずみ高校 4.6%⇒4.7%
富山中部高校	普通科 0.45 倍、探究科学科 2.32 倍	
富山いずみ高校	総合学科 1.40 倍、看護科 1.14 倍	

こうした観点から検討し、富山西高校を令和11年度より募集停止とし、令和12年度末をもって閉校とする。

現在、富山西高校で行われている体育、芸術、家庭、情報などの多様な専門科目の学びを、富山エリアに設置する未来探求ハイスクールを中心に、県内それぞれの未来探求ハイスクールにおける多様な選択に活かし、さらに充実させていく。

(3) 射水エリア

①県立高校（全日制）の設置状況

小杉高校（総合学科）	第1期校として活用
大門高校（普通科）	
新湊高校（普通科、商業科）	

②通学の便

大門高校	越中大門駅(あいの風富山鉄道)から徒歩20分
新湊高校	西新湊駅(万葉線)から徒歩5分

③教育内容

大門高校における情報教育、新湊高校における商業教育は、第1期に東西各1校設置する未来探求ハイスクール（タイプ1）の教育内容と共通する部分が多い。

④志願状況（直近5年平均）、地元進学率（3年平均の比較 R3-R5⇒R6-R8）

大門高校	普通科 1.01 倍	【参考】射水市内中学校からの進学割合 小杉高校 8.3%⇒7.4% 大門高校 6.5%⇒6.3% 新湊高校 9.7%⇒9.3%
新湊高校	普通科 0.88 倍、商業科 1.10 倍	

こうした観点から検討し、大門高校を令和11年度より募集停止とし、令和12年度末をもって閉校とする。

現在、大門高校で行われている情報コースの専門的な学びを未来探求ハイスクール（タイプ1）における「商業科の学び×AI・情報×各種専門分野」に、また富山県立大学との大学連携や地域連携プログラムについては、小杉高校敷地に設置する未来探求ハイスクール（タイプ2）にそれぞれ活かし、さらに充実させていく。

(4) 高岡・氷見・小矢部エリア

①県立高校（全日制）の設置状況

高岡高校（普通科、探究科学科）	第2期校として活用
高岡工芸高校（工業科）	
高岡商業高校（商業科）	第1期校として活用
伏木高校（国際交流科）	

高岡南高校（普通科）	
福岡高校（普通科）	
氷見高校（普通科、農業科学科、海洋科学科、ビジネス科、生活福祉科）	市に1校
石動高校（普通科、商業科）	市に1校

②通学の便

高岡工芸高校	J R 氷見線（越中中川駅から徒歩5分）
伏木高校	J R 氷見線（越中国分駅から徒歩8分）

高岡南高校	J R 城端線（戸出駅から徒歩7分）
福岡高校	あいの風富山鉄道（福岡駅から徒歩8分）

③教育内容

高岡南高校、福岡高校における国際教育や、伏木高校における環日本海諸国との経済・文化・学術等の交流は、第1期に設置するグローバルハイスクールや未来探求ハイスクール（タイプ1）の教育内容と共通する部分が多い。高岡工芸高校の教育内容は第1期校と共通する内容が少ない。

④志願状況（直近5年平均）、地元進学率（3年平均の比較 R3-R5⇒R6-R8）

伏木高校	国際交流科 0.55 倍	【参考】高岡市内中学校からの進学割合 伏木高校 4.8%⇒1.9% 高岡南高校 7.0%⇒6.9% 福岡高校 5.9%⇒6.0%
高岡南高校	普通科 1.12 倍	
福岡高校	普通科 1.10 倍	

こうした観点から検討し、伏木高校を令和11年度より募集停止とし、令和12年度末をもって閉校とする。

現在、伏木高校で行われている環日本海諸国との交流を高岡商業高校敷地に設置する未来探求ハイスクールにおける「商業科の学び×AI・情報×各種専門分野」に、またグローバルハイスクールにそれぞれ活かし、さらに充実させていく。